



市制施行50周年シンボルマーク 応募作品を選考

(7月13日)

来年1月1日に迎える市制施行50周年を記念するシンボルマークの審査を市役所で行いました。6月末までに465点の作品が全国から応募されました。代表の市職員が、会議室いっぱいになられた作品のデザインや込められた思いなどを1点ずつ確認しました。絞り込まれた作品は、市長・副市長らの審査で最優秀作1点と優秀作2点を選びました。

色とりどりの花が道路を飾る (7月15日)

都市計画道路平松深良線沿いに東小学校の児童が花の苗を植えました。花植えは、花と緑のまちづくりをテーマにする都市緑化推進運動の一環です。天候不順で3度の延期となりましたが、曇り空のこの日ようやく実施できました。児童の手で植えられたマリーゴールドとサルビアの合計130本が、道路の植樹帯を飾りました。



竹あかりに祈りを込めて

(8月8日)

富岡地区の有志は、富岡第一小学校グラウンドで竹あかり会を開催しました。これは、恒例の富岡地区夏祭りの中止を受け、竹灯笼に災害の鎮まりや新型コロナウイルス感染症の拡大収束の祈りを込めて展示したものです。会場には約150本の竹灯笼が飾られ、訪れた人の目を楽しませていました。一部の竹灯笼は販売され、収益金が九州水害復興支援金に寄付されました。

打ち上げ花火と盆踊りで明るい気持ちに (8月8日)

石脇区の区民有志（石青会、石鑄会など）は、新型コロナウイルス感染症の拡大収束を祈り、約120発の花火を打ち上げました。花火には、昨今の状況で同区三嶋神社祭典も縮小される中、前を向き少しでも明るい気持ちになって欲しいとの思いが込められています。花火の前には公民館でミニ盆踊りも行われ、来場者は例年と違う夏の夜のひと時を楽しんでいました。

